



淨土真宗聖典



# 浄土真宗聖典

## 目次

浄土真宗の教章	二
生活信条	三
礼讃文(三帰依文)	四
正信念仏偈(しんじんのうた)	五
現世利益和讃	七一
十二礼(らいはいのうた)	七四
讚仏偈(さんだんのうた)	八七
重誓偈(ちかいのうた)	一〇六
仏説阿弥陀経	一一八
御文章	一三七
領解文	一四三
解説	一四五
讚仏歌	一五二

じょう ど しん しゅう きょうしゅう  
**浄土真宗の教章**  
 わたし あゆ みち  
 — 私の歩む道 —

宗名 浄土真宗  
 宗祖 親鸞聖人  
 (ご開山) 誕生 一七三三年五月二十一日  
 (承安三年四月一日)  
 ご往生 一二六三年一月十六日  
 (弘長二年十一月二十八日)

宗派 浄土真宗本願寺派

本山 龍谷山 本願寺 (西本願寺)

本尊 阿弥陀如来 (南無阿弥陀仏)

聖典

- ・釈迦如来が説かれた「浄土三部経」
- 『仏説無量寿経』 『仏説観無量寿経』
- 『仏説阿弥陀経』
- ・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教
- 『正信念仏偈』 (『教行信証』行巻末の偈文)
- 『浄土和讃』 『高僧和讃』 『正像末和讃』

教義

・中興の祖 蓮如上人のお手紙  
 『御文章』  
 阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

生活

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

じょう ど しん しゅう      せい かつ しん じょう  
浄土真宗の生活信条

一、み仏ほとけの誓ちかいを信しんじ 尊とうといみ名なをとなえつつ

強つよく明あかるく生いき抜ぬきます

一、み仏ほとけの光ひかりをあおぎ 常つねにわが身みをかえりみて

感かん謝しゃのうちに励はげみます

一、み仏ほとけの教おしえにしたがい 正ただしい道みちを聞ききわけて

まことのみのりをひろめます

一、み仏ほとけの恵めぐみを喜よろこび 互たがひにうやまい助たすけあい

社しゃ会かいのため尽つくします

礼 讚 文  
—三 帰 依 文—

(講師独誦)

人身受け難し、今已に受く、仏法聞き難し、今已に聞く。この身今生に向かつて度せずんば、さらにいずれの生に向かつてかこの身を度せん。大衆諸共に至心に三宝に帰依したてまつるべし。

(会衆一同)

自ら仏に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大道を体解して無上意を發さん。

自ら法に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、深く経蔵に入りて智慧海の如くならん。

自ら僧に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大衆を統理して一切無碍ならん。

(講師独誦)

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも値遇うこと難し。われ今見聞し受持することを得たり。願わくは如来の眞実義を解したてまつらん。

# 正しやう信しん念ねん仏ぶつ偈げ

正しやう信しん偈げ（しんじんのうた）|| 解かい説せつ

親しん鸞らんさまのお書かきになつた最もつとも大たい切せつな『教きやう行ぎやう信しん証しやう』といふ本ほんの中なかにある讚うた偈たです。

始はじめに、阿あ弥み陀ださまのはたらきによつて私わたし達が救すくわれることが示しめされています。そしてこのみ教おしえを伝つたえて下くださつたお釈しゃ迦かさまをはじめ、七にん人の高こう僧そうのお徳とくをおほめになり、私わたしたちにこれらの方かた々がたの言いわれたことを共ともに聞きいてゆきましよう、と、おすすめ下くださつています。

● 歸きー 命み引 無むー 量り引 寿じゆー 如によー 来らい引

同 南なー 無もー 不ふー 可かー 思しー 議ぎー 光こー引

法ほう 蔵ぞう 菩ぼー 薩さつ 因いん 位にー 時じ引

在ざー 世せー 自じー 在ざー 王おう 仏ぶー 所し引



觀とー見けん諸しよー仏ぶつ淨じよう土どー因いー引

国こく土どー人にん天てん之しー善ぜん惡まー引

建こん立りゆう無むー上じよう殊しゆー勝しよう願が引

超ちよう発ほつ希け引有う大だ引弘ぐ誓ぜ引

五ご劫こう思し惟ゆい之し撰しょう受じゆ

重じゆう誓せい名みよう声しょう聞もん十じゅう方ぽう

普ふ放ほう無む量りよう無む辺へん光こう

無む碍がい無む对たい光こう炎えん王おう